

**H 2 8 年鳥取県山間集落实態調査  
鳥取市集計結果**

**鳥取市企画推進部  
地域振興局地域振興課**

# 目次

<b>I 調査の枠組み</b>	
1 調査概要	P 1
2 調査の方法	P 1
3 調査対象	P 2
<b>II 調査結果の概要</b>	
1 人口・世帯数の動向	
① 人口・世帯数・高齢化	P 3
② 世帯あたりの人数	P 6
③ 転入・転出の状況	P 7
④ 将来の定住意向と家族のUターン意向	P 8
2 生活実態・集落運営の動向	
① 交通手段	P 10
② 通勤・通学状況	P 11
③ 通院	P 12
④ 買い物	P 13
⑤ 保育園等への通学・通園	P 15
⑥ 暮らしの様子	P 16
⑦ 住まいの環境	P 18
⑧ 情報通信機器の活用	P 19
⑨ 災害対策	P 21
3 集落の環境と運営	
① 山林・農地	P 23
② 道路	P 24
③ 地域おこし協力隊・集落支援員	P 25
④ 集落を超えた取り組みと地域の課題	P 26

# I 調査の枠組み

## 1 調査概要

平成2年から鳥取県農林水産部が独自に山間奥地の111集落（いわゆる「いきどまり集落」）を選定し、主に農林水産業の観点から調査を行ってきたが、平成18年より、住民の日常生活の状況を把握するため、生活者の視点を重視した項目を設定し、調査を行った。

今回の調査も、住民の生活実態の把握に力点を置いた調査を実施するとともに、得られた傾向をもとに、今後、これまでの中山間地域振興施策の成果を分析し、次期中山間対策の検討を行っていくための基礎資料とする。

## 2 調査の方法

### (1) 調査の内容

・世帯調査及び集落点検調査

1)世帯調査：世帯別の生活実態を把握するため、調査対象集落の全世帯に配布調査を行った。

2)集落点検調査：集落全般の内容について把握するため、各集落の代表者から聞き取りを行うとともに各市町が把握している集落情報を調査する。

・県、市町の役割分担

市町との合同調査の位置づけのもと、以下のとおり実施。

(県) 各市町の調査票の作成、集計及び分析

(市町) 各集落への調査票の配布と回収、住民への周知

### (2) 調査基準日 平成28年5月1日

### (3) 調査手順

- ・調査票の配布 平成28年4月中～下旬
- ・調査票の記入期限 [世帯調査]平成28年5月末日  
[集落点検調査]平成28年6月末日
- ・調査票の回収 平成28年6月～7月
- ・データ入力・分析 平成28年7月～

### (4) 調査項目（一例）

・世帯調査

家族の状況、生活の範囲、世帯の収入、将来の見込み、山林・農地の所有状況、情報通信の状況など

・集落点検調査

人口・世帯数・高齢化率、空き家の状況、積雪時の雪かき対応、地域運営組織の意向、集落内の課題など

### 3 調査対象（鳥取市）

#### （1）調査対象集落（詳細は下記）

山間谷部奥地に位置する集落から選定

■ 22集落 568世帯

【調査対象集落の概要】※中央値：複数のデータ値の、ちょうど中央に位置する値。

① 世帯規模 （中央値）21世帯

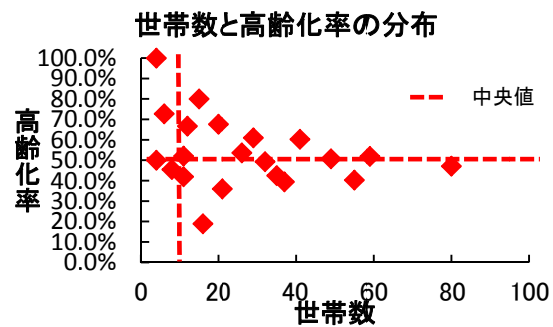
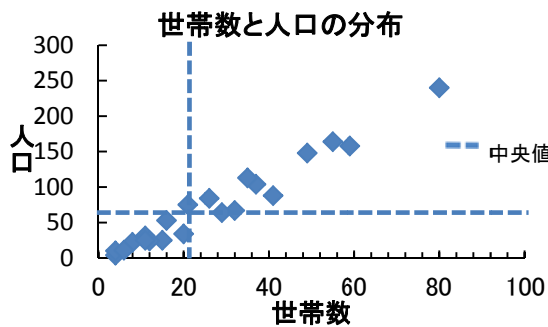
最小集落 4世帯（2集落） 最大集落 80世帯（1集落）

② 人口規模 （中央値）64人

最小集落 4人（1集落） 最大集落 240人（1集落）

③ 高齢化率 （平均）53.7%

最小集落 18.9%（1集落） 最大集落 100%（1集落）



#### （2）回収状況

21集落 516世帯

#### （3）回収率

集落ベース 95.5%（21/22集落）

戸数ベース 90.8%（516/568世帯）

#### 調査対象22集落名

- 鳥取地域 : 安蔵、岩坪、高路
- 国府地域 : 大石、雨滝、上地（上上地、下上地）
- 福部地域 : 清内谷
- 河原地域 : 小河内、新田、山上、神馬、柚小屋
- 用瀬地域 : 江波
- 佐治地域 : 栃原、中
- 鹿野地域 : 鬼入道、小畑、河内（上条、下条）
- 青谷地域 : 小畑、桑原、絹見、引地

## II 調査結果の概要

### 1 人口・世帯数の動向

#### ① 人口・世帯数・高齢化

人口・世帯数の減少及び高齢化はさらに進行し、独居世帯の比率も高まっている。

(1) 集落内人口・世帯数の減少が進行

- ・集落人口 H18：2,154人→H23：1,865人(▲289人)→H28：1,544人(▲321人)
- ・世帯数 H18：644世帯→H23：629世帯(▲15世帯)→H28：568世帯(▲61世帯)  
集落人口50人未満の小規模集落は全体の半数近くを占め、集落内世帯数が10世帯以下の集落は全体の約20%を占める。
- ・集落人口50人未満の集落 H18：7集落→H23：8集落→H28：9集落
- ・集落内世帯数10世帯以下の集落 H18：4集落→H23：4集落→H28：4集落

(2) 高齢化率の高い集落が増加中

- ・集落全体の高齢化率がさらに上昇。H23：42.6%→H28：45.5%(+2.9ポイント)  
集落内人口の減少で高齢化率が50%以上を超えた集落数が倍以上に増えた。
- ・高齢化率50%以上の集落  
H7:0集落 H12:1集落 H18:3集落 H23:8集落 H28:12集落

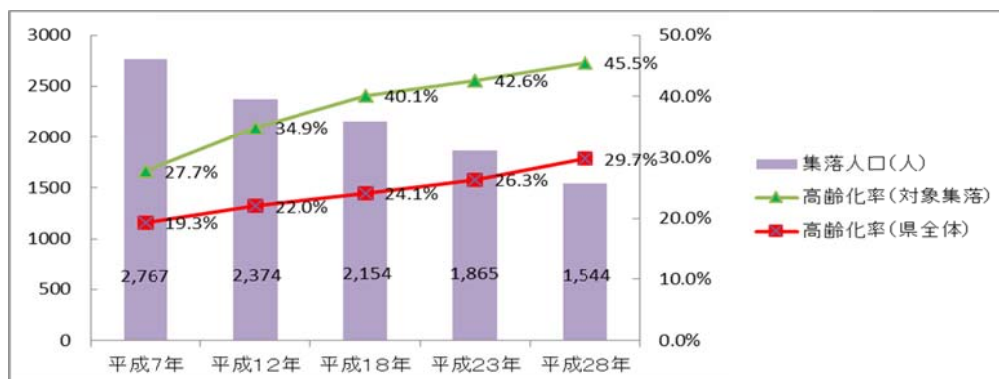
(3) 独居世帯

全世帯の15.7%(89世帯)が独居世帯であり、集落の全世帯に占める独居世帯の割合が30%を越えている集落は5集落存在する。  
・独居世帯の割合 H18：14.0%→H23：14.9%→H28：15.7%

#### (1) 人口・世帯数・高齢化率の推移

区分	平成7年	平成12年	H7との差	平成18年	H12との差	平成23年	H18との差	平成28年	H23との差
	集落人口(人)	2,767人 (100%)	2,374人 (85.8%)	▲393 (▲14.2%)	2,154人 (77.8%)	▲220 (▲8.0%)	1,865人 (67.4%)	▲289 (▲10.4%)	1,544人 (55.8%)
(県全体)	614,929 (100%)	613,289 (99.7%)	▲1,640 (▲0.3%)	607,012 (98.7%)	▲6,277 (▲1.0%)	588,418 (95.7%)	▲18,594 (▲3.0%)	573,648 (93.3%)	▲14,770 (▲2.4%)
集落世帯数(世帯)	709世帯 (100%)	668世帯 (94.2%)	▲41 (▲5.8%)	644世帯 (90.8%)	▲24 (▲3.4%)	629世帯 (88.7%)	▲15 (▲2.1%)	568世帯 (80.1%)	▲61 (▲8.6%)
(県全体)	188,866 (100%)	199,988 (105.9%)	11,122 (5.9%)	208,526 (110.4%)	8,538 (4.5%)	211,832 (112.2%)	3,306 (1.8%)	215,542 (114.1%)	3,710 (1.9%)
高齢化率(%)	27.7%	34.9%	7.2%	40.1%	5.2%	42.6%	2.5%	45.5%	2.9%
県全体	19.3%	22.0%	2.7%	24.1%	2.1%	26.3%	2.2%	29.7%	3.4%

※県全体の数値は「国勢調査(H27速報値)」、「鳥取県年齢別推計人口(H27)」を使用

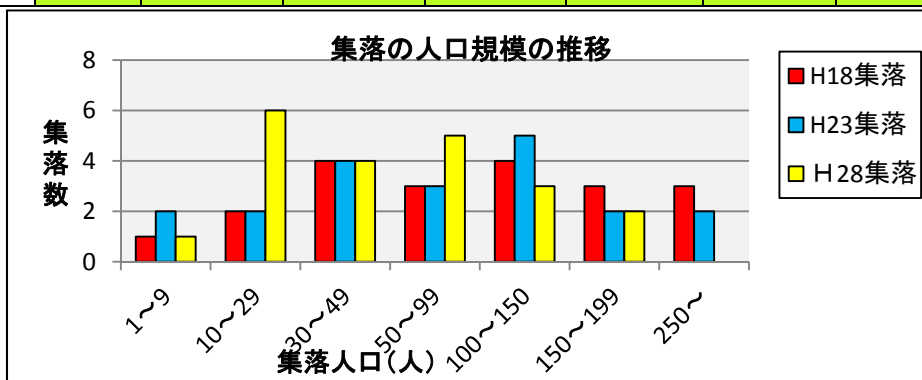


■人口規模別集落数・世帯規模別集落数

<集落の人口規模の推移>

H28	集落の人口規模(人)							
	1～9	10～29	30～49	50～99	100～150	150～199	250～	計
集落数	1	6	4	5	3	2		21
比率	4.8%	28.6%	19.0%	23.8%	14.3%	9.5%		100.0%

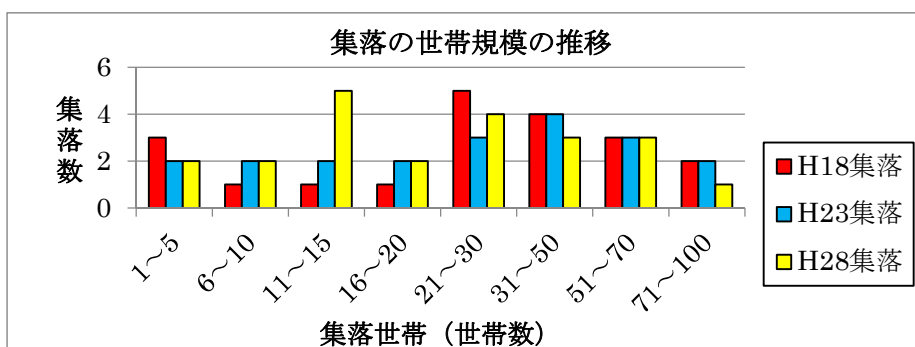
H23	集落の人口規模(人)							
	1～9	10～29	30～49	50～99	100～150	150～199	250～	計
集落数	2	2	4	3	5	2	2	20
比率	10.0%	10.0%	20.0%	15.0%	25.0%	10.0%	10.0%	100.0%



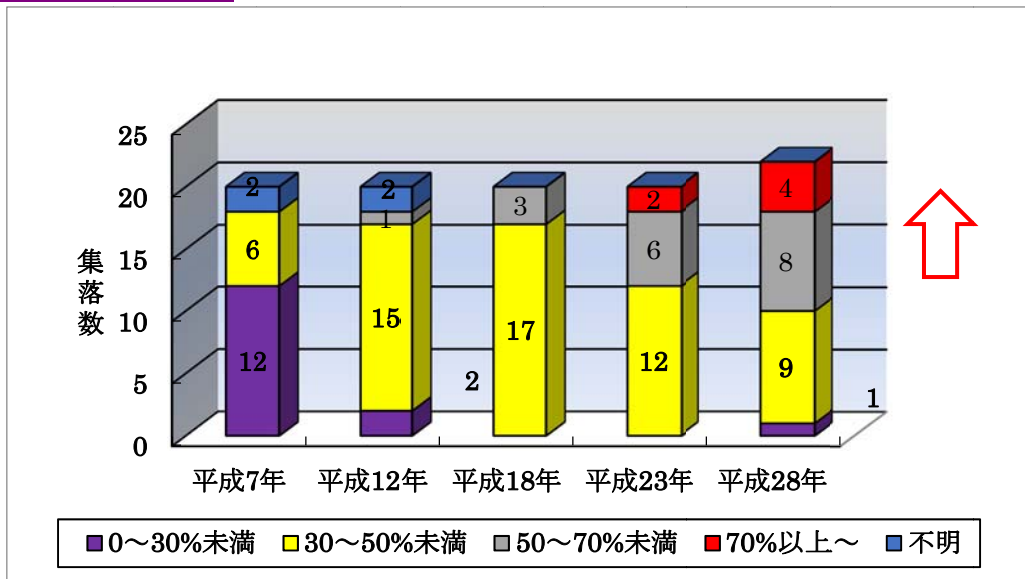
H28	集落の世帯規模(世帯)								
	1～5	6～10	11～15	16～20	21～30	31～50	51～70	71～100	計
集落数	2	2	5	2	4	3	3	1	22
比率	9.1%	9.1%	22.7%	9.1%	18.2%	13.6%	13.6%	4.5%	100.0%

H23	集落の世帯規模(世帯)								
	1～5	6～10	11～15	16～20	21～30	31～50	51～70	71～100	計
集落数	2	2	2	2	3	4	3	2	20
比率	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%	15.0%	20.0%	15.0%	10.0%	100.0%

<集落の世帯規模の推移>



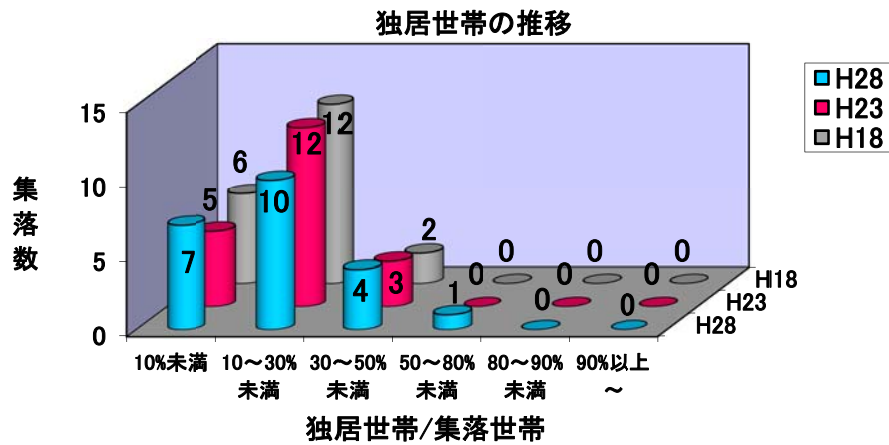
(2) 高齢化率の推移 (65歳以上の住民の割合)



高齢化率(%)

区分	H7	H12	H18	H23	H28
調査対象集落	27.7	34.9	40.1	42.6	45.5
県全体	19.3	22.0	24.1	26.3	29.7

(3) 独居世帯の状況



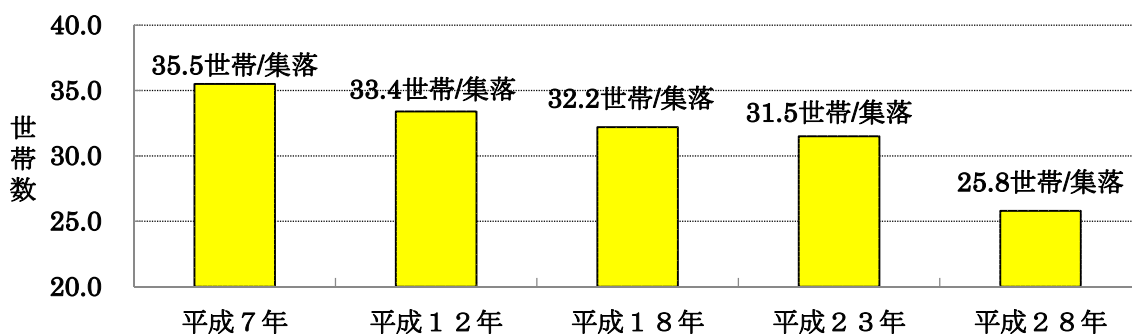
	独居世帯数	独居世帯の割合
H28	89	15.7%
H23	94	14.9%
H18	90	14.0%

## ② 世帯あたりの人数

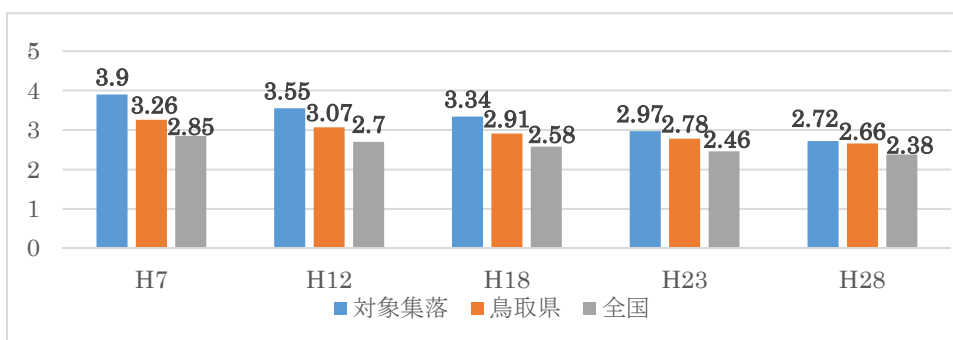
集落あたりの世帯数及び世帯人口の減少傾向が続いており、集落内で平均した場合の1世帯あたりの世帯人口が3人未満の集落の数が全体の2/3を占める。

- (1) 1集落あたりの世帯数の平均値は減少傾向。
- (2) 世帯人口は年々減少しており、調査対象集落の方が県平均の1世帯あたりの平均人数は多いが、その差は近年少なくなっている。
- (3) 集落ごとの世帯人口の平均は年々減少しており、半数以上の集落で世帯人口が3人未満となっている。

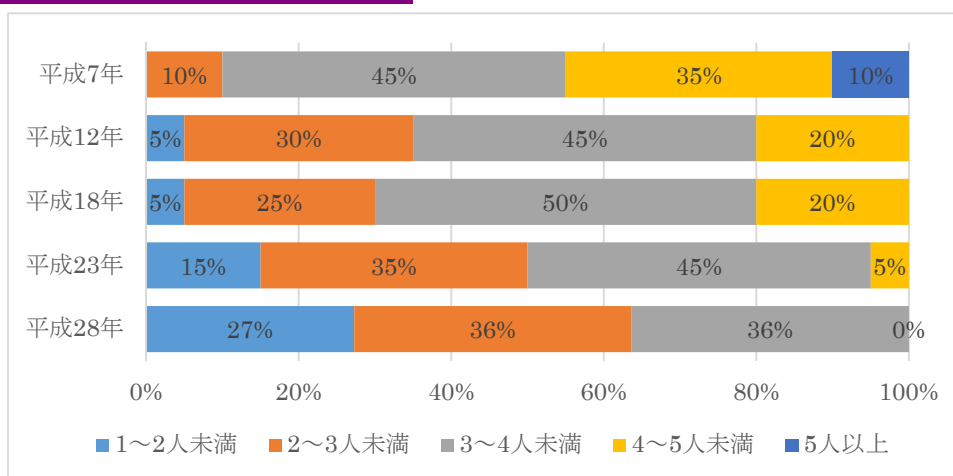
### (1) 集落における世帯数の平均値の推移



### (2) 世帯人口の推移



### (3) 集落ごとの世帯人口割合の推移





### ③ 転入・転出の状況

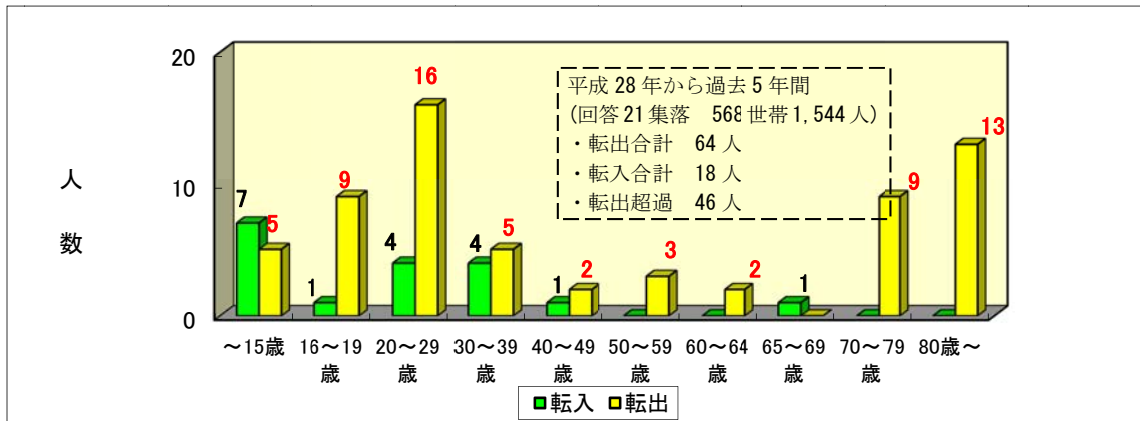
依然として転出超過状況が継続しており、転出先は県内が多い。

- (1) 10～20代の若年層のみならず70代以上の高齢者の転出超過傾向が顕著である。
- (2) 転出超過の状況は若年層では鈍化しているが、高齢者は依然として転出超過傾向となっている。

- (3) 転入元は県外、転出先は県内が多い。

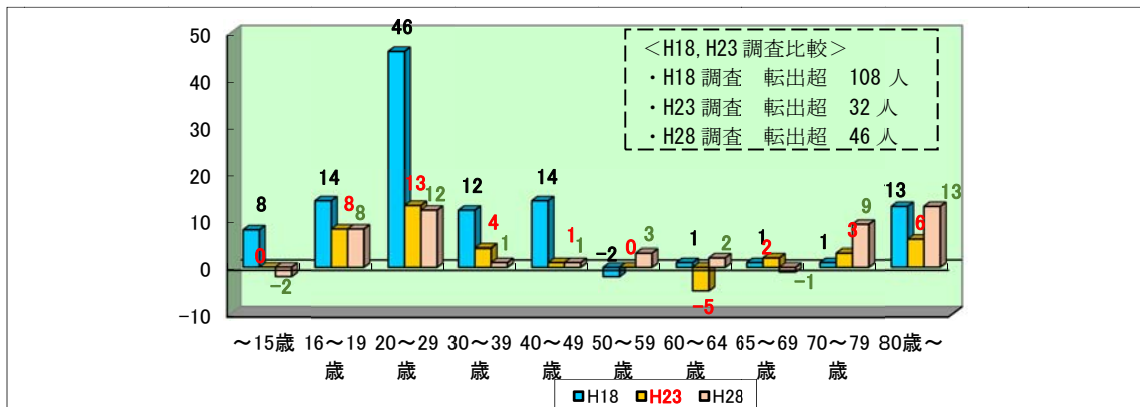
若年層は進学・就職等により、近郊及び県内に転出している状況が進行しているものと想定される。高齢者は介護施設等への入所や集落外に居住する家族との同居が考えられる。

#### (1) 転入・転出の推移 (年齢区分別)

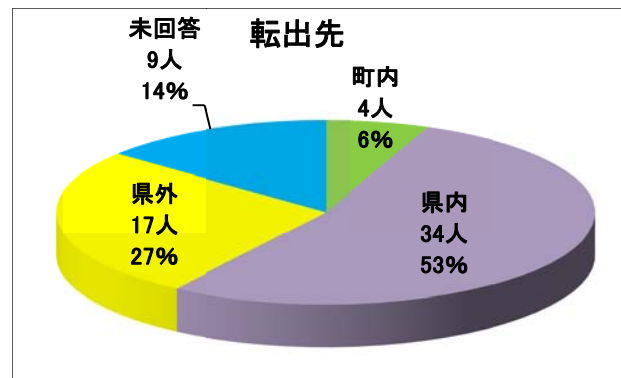
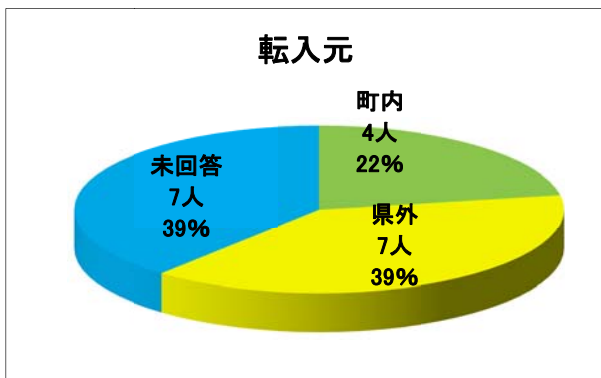


#### (2) 転出超過数の推移 (H18, H23 調査比較)

\* 転出超過数=転出者-転入者



#### (3) 転入・転出先



#### ④ 将来の定住意向と家族のUターン意向

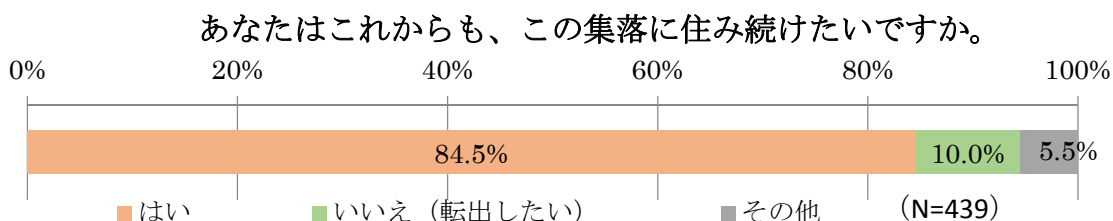
現在集落に住んでいる人の定住への意向は強く、先祖から受け継いだ財産の保全に対する意識が高い。一方で、跡取りが帰ってこないと回答した人が増加している。これらのことから集落内外で意識の格差があると思われる。

定住可能期間について、健康な間（全体の42.6%）という回答が最も多かった。また、今後も集落に住み続けるために、医療や買い物を目的とした移動手段の確保が集落で求められている。

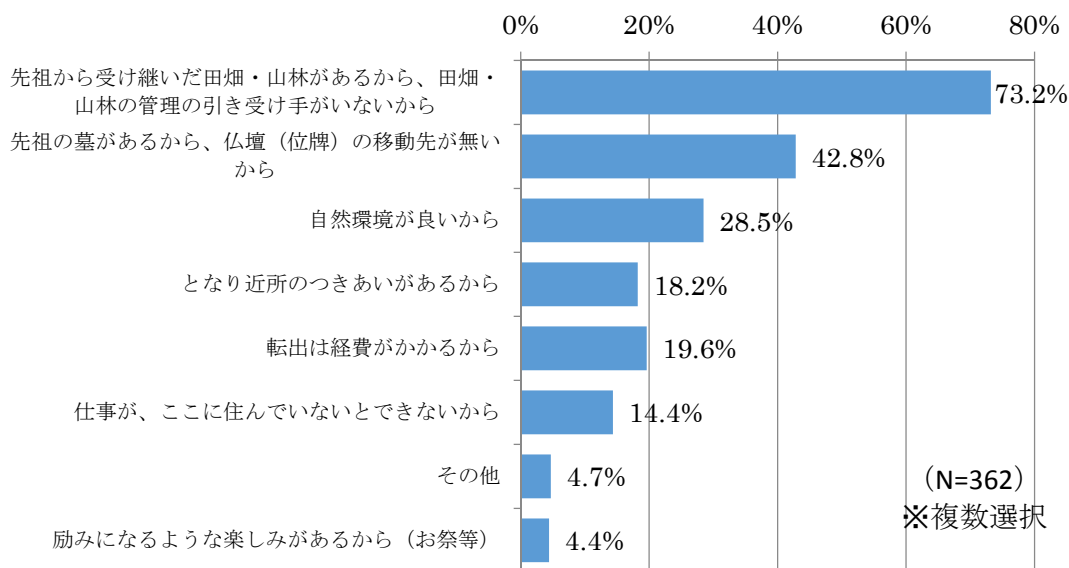
##### （1）今後の定住意向の状況

定住へのこだわりは強く、371世帯(全体の84%)が「住み続ける」と回答した。

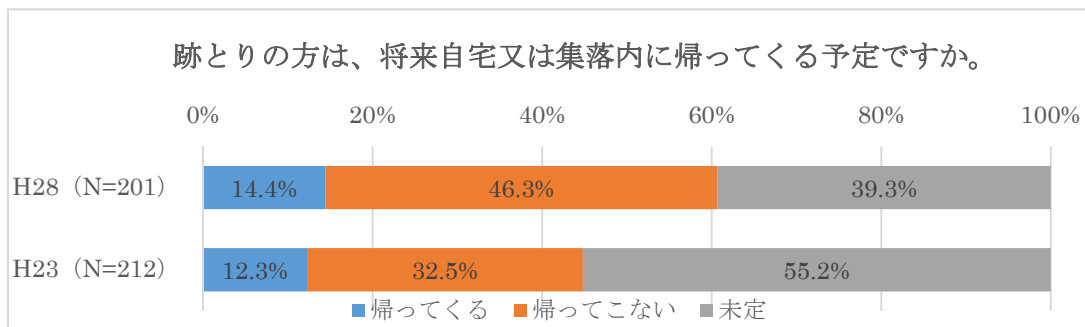
一方で44世帯（全体の10%）が転出したいと回答した。



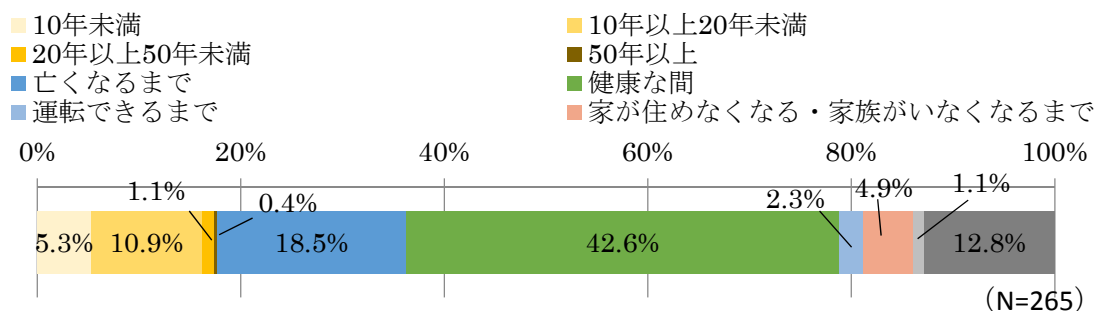
##### （2）定住の理由



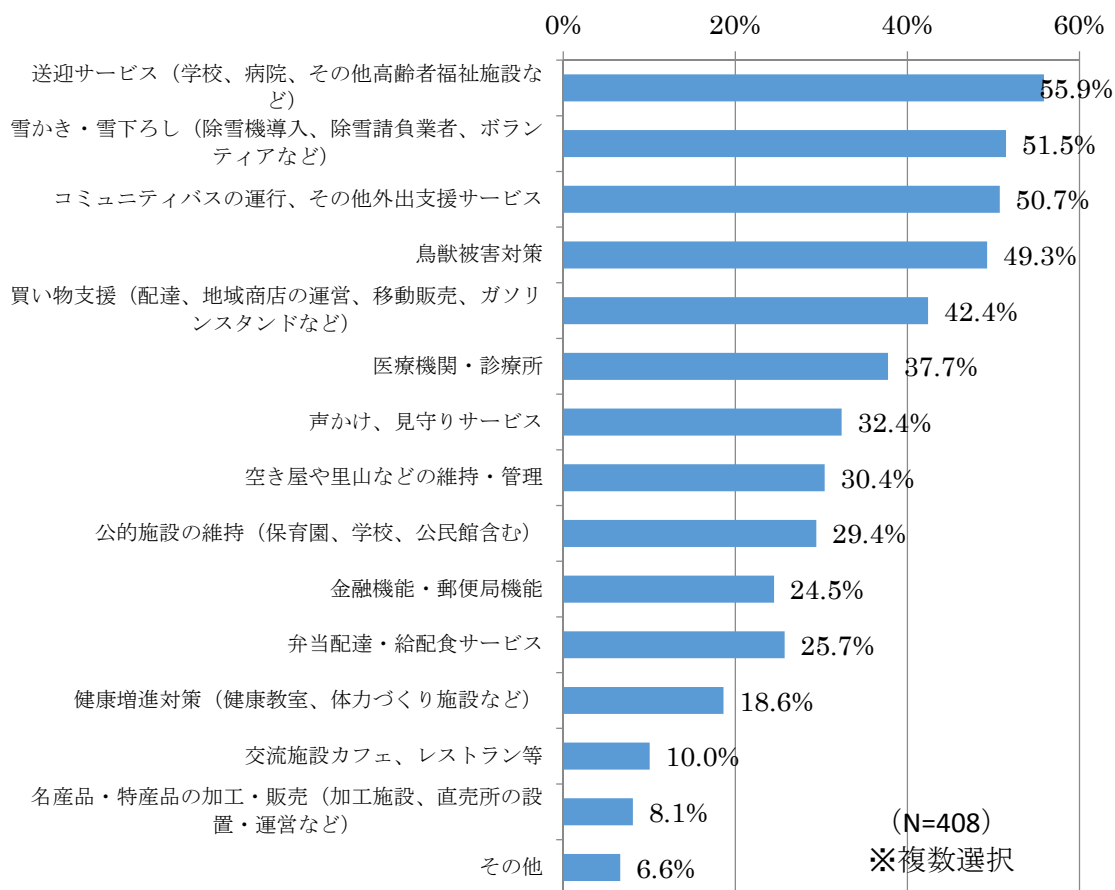
##### （3）集落外の親族のUターン状況



#### (4) 定住可能期間



#### (5) あなたがこの集落に住みつけるために必要なもの(機能)は、何ですか？



## 2 生活実態・集落運営の動向

### ① 交通手段

調査対象集落において、通院等のために主に誰が運転しているか調査するため、免許を保有する同居家族の年齢を調査したところ、60歳未満の免許証を保有する同居家族がいる世帯割合が低下している。また、世帯の高齢化に伴い、今後車の運転が困難となり、買い物や通院など日常生活に支障が生じる世帯が急増することが予想される。

#### 車の運転が困難となる世帯が増加

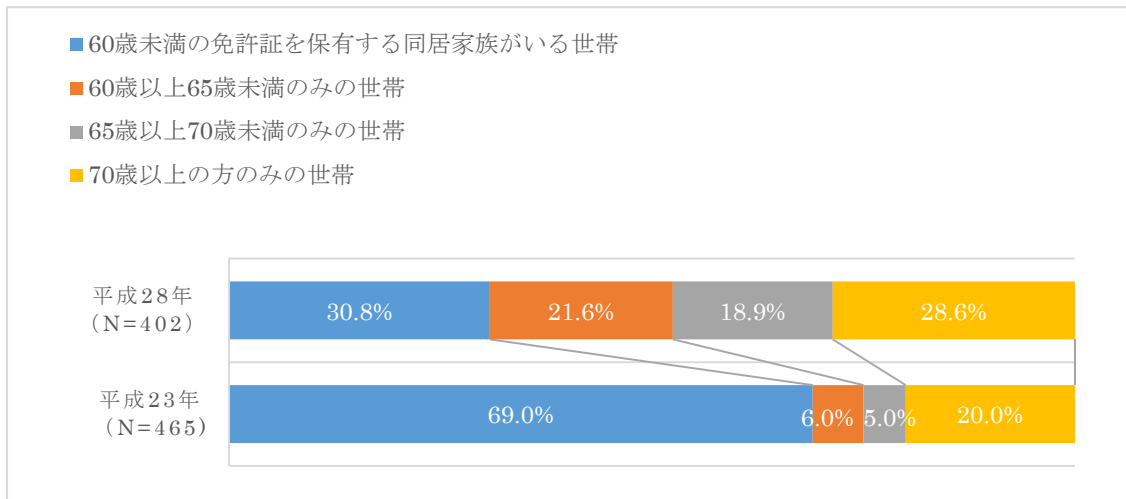
免許証を保有している人がいる世帯（402世帯）のうち、「運転免許保有者が60歳以上のみの世帯」が全体の69.2%を占め、そのうち、「70歳以上の方のみの世帯」は全体の28.6%となっている。

<70歳以上の方のみの世帯>

H18調査：10%→H23調査：20%→H28調査：28.6%

### (1) 運転免許を保有している世帯の年齢構成

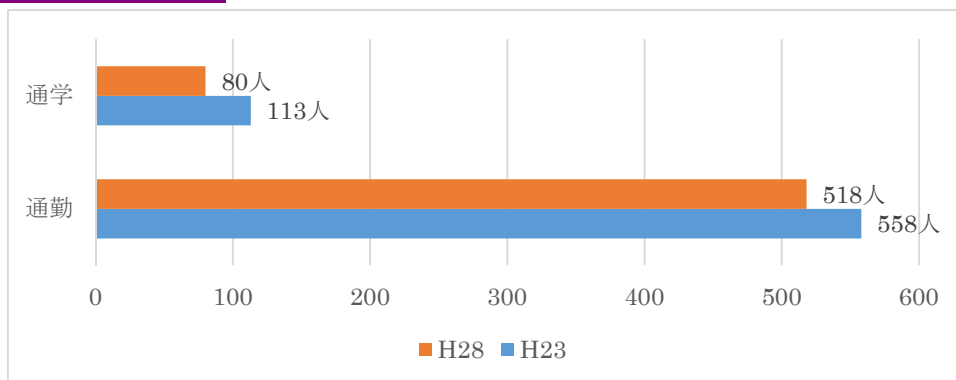
免許証を保有している人がいる世帯の総数 402世帯



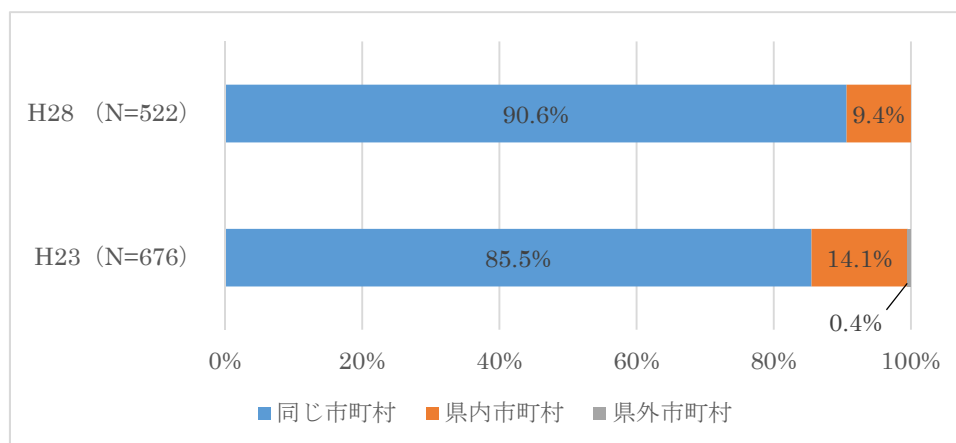
## ② 通勤・通学状況

- ・通勤、通学の範囲として、同じ市町村内が9割を超え、居住している市町村内への通勤、通学が増加している。
- ・交通手段では、通勤においては93.7%が「自家用車」と回答し、自家用車での通勤が主となっている実態が伺える。

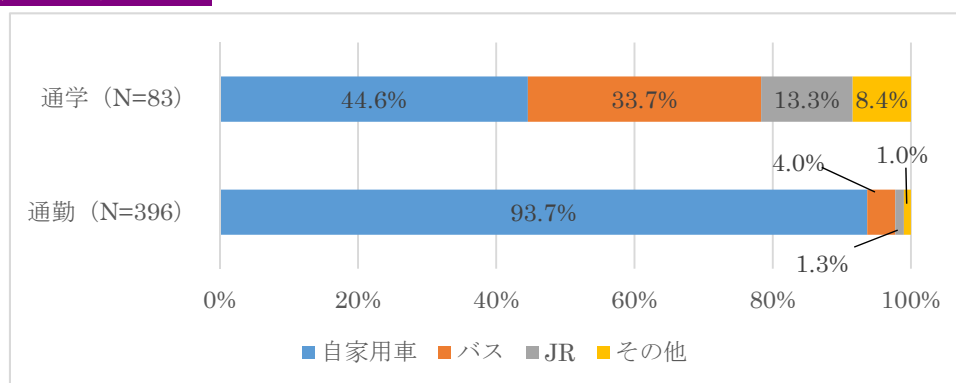
### (1) 通勤・通学人数



### (2) 通勤・通学の範囲



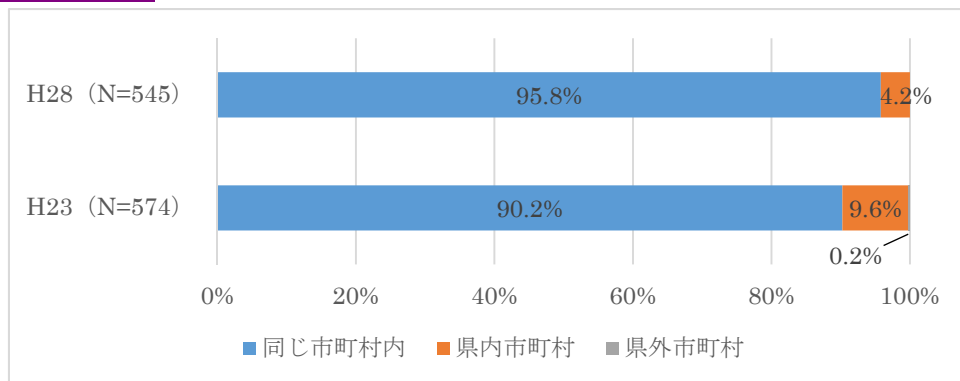
### (3) 主な交通手段



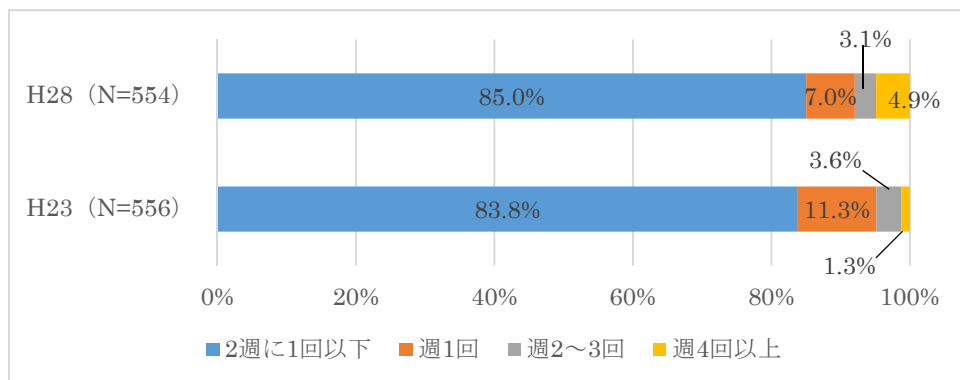
### ③ 通院

- ・通院の交通手段として、75.6%の方が自家用車を利用している。バス・JR等の公共交通機関の利用は18.6%と低い状況。
- ・2週間に1回程度、同一市町村内で、自ら運転して出かける人が多い。
- ・車の運転が困難となる高齢世帯が増える中、移動手段の確保や移動サービスの提供が必要である。

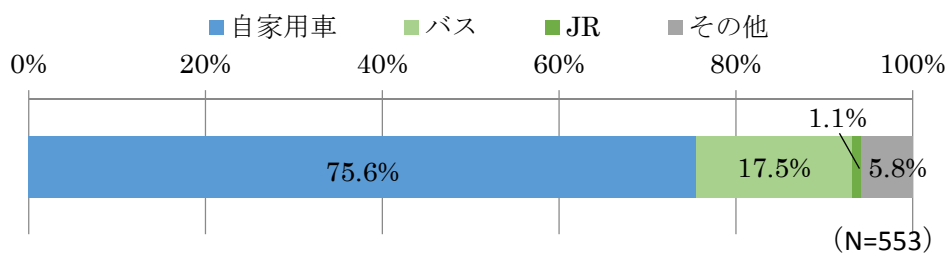
#### (1) 通院の場所



#### (2) 通院の回数



#### (3) 通院の交通手段



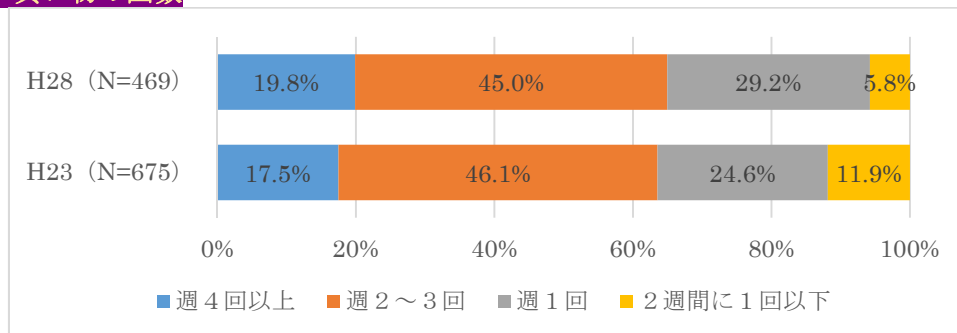
#### ④ 買い物

- ・週2～3回程度、同一市町村内で買い物を済ませる世帯が多い。
- ・移動販売について74.6%の世帯が身近に来ていると認識しているが、主な買い物先として利用する世帯はまだ少ない。

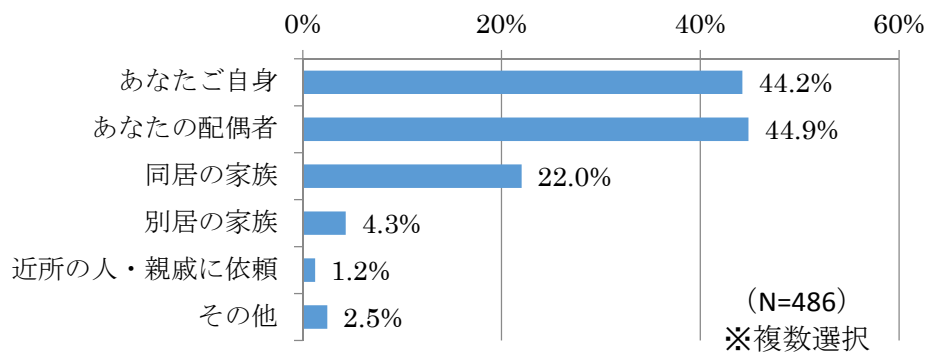
移動販売の普及

H18	H23	H28
55%	65%	71%
(11集落/20集落)	(13集落/20集落)	(15集落/21集落)

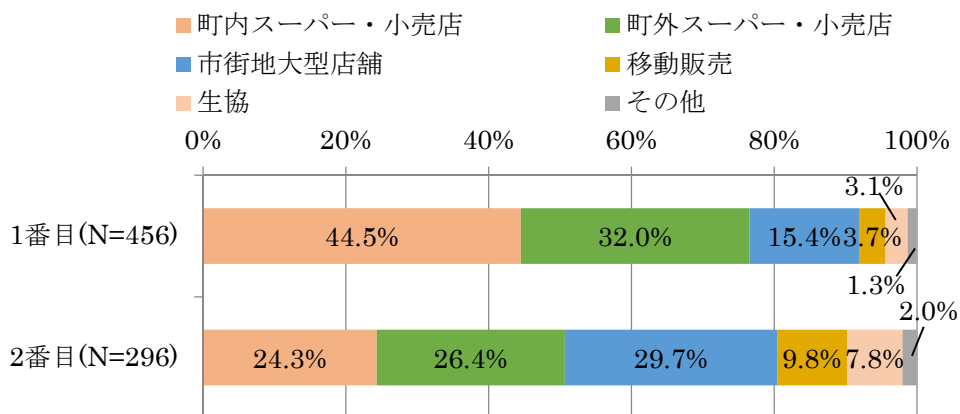
##### (1) 買い物の回数



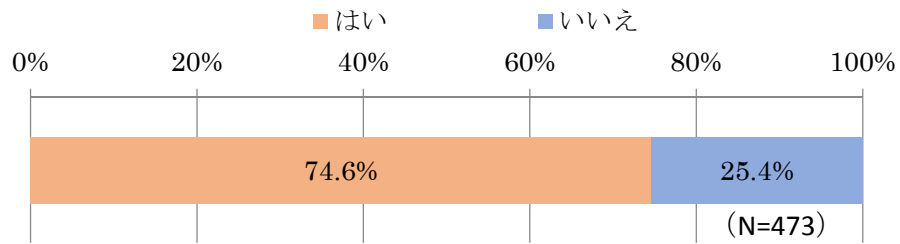
##### (2) 日常の食料品は主に誰が調達しているか



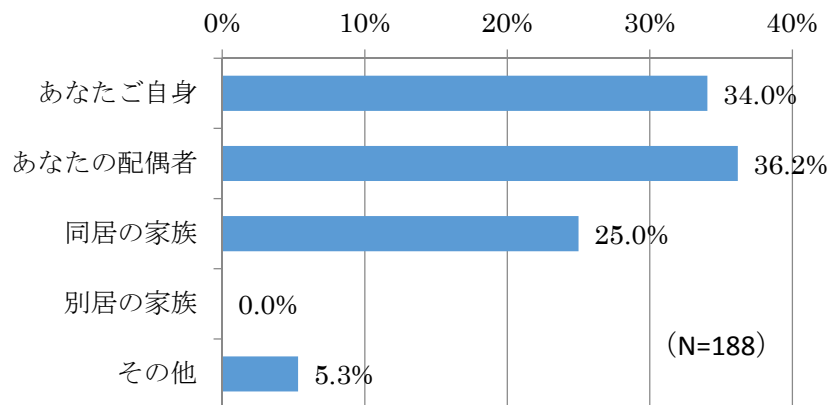
##### (3) 主な買い物先



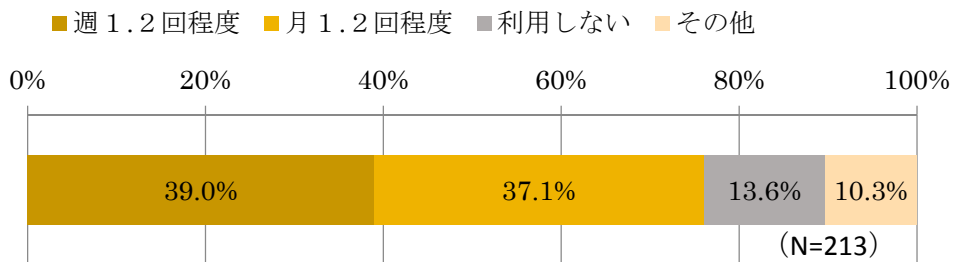
**(4) 移動販売車が身近に来ますか**



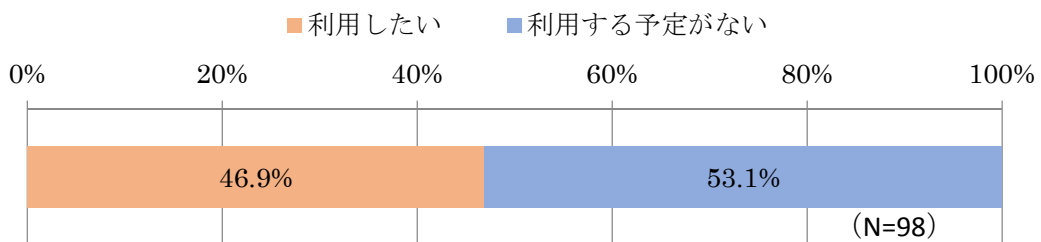
**(5) 移動販売車の利用は主に家族の誰が利用していますか？**



**(6) 移動販売車はどの程度利用していますか？**



**(7) 移動販売車が身近に来ない方に質問です。今後、移動販売車を利用したいですか？**

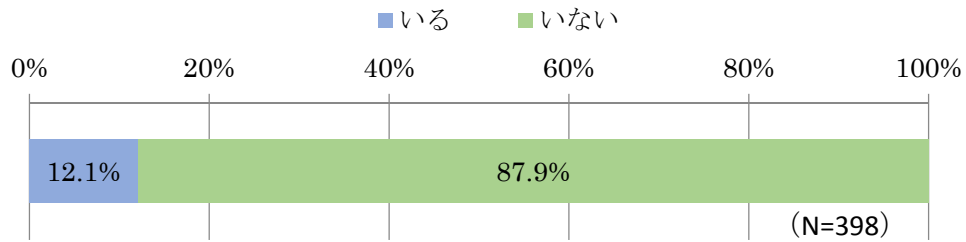




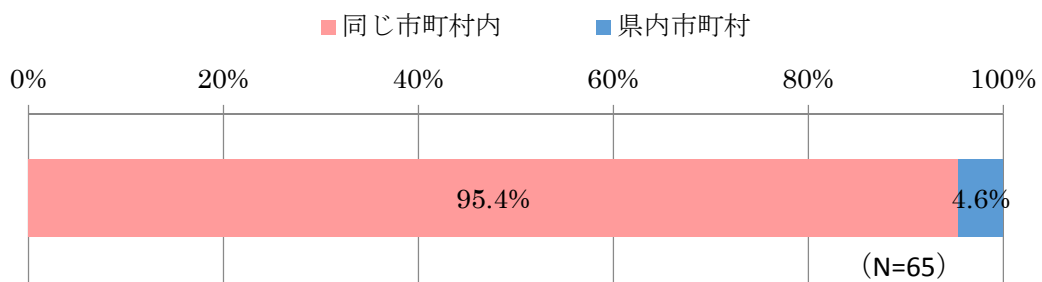
### ⑤ 保育園等への通学・通園

- ・ 保育園等への通学・通園は、12.1%の世帯が「いる」と回答しており、場所は同じ市町村内で95.4%、県内市町村は4.6%となっている。
- ・ 交通手段として44.6%の方が自家用車を利用、33.7%がバスとなっている。

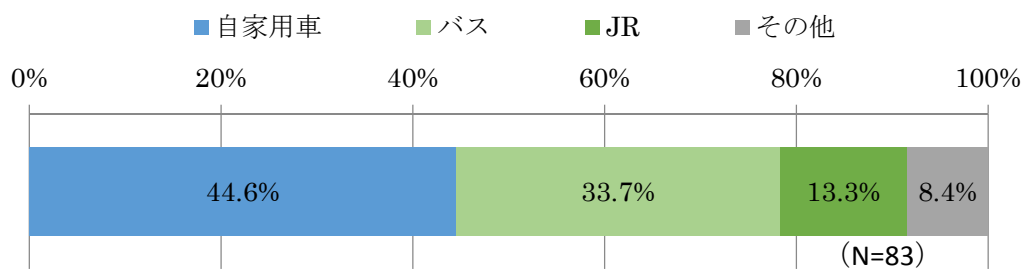
#### (1) 保育園等への通学・通園の存在



#### (2) 通学・通園の場所



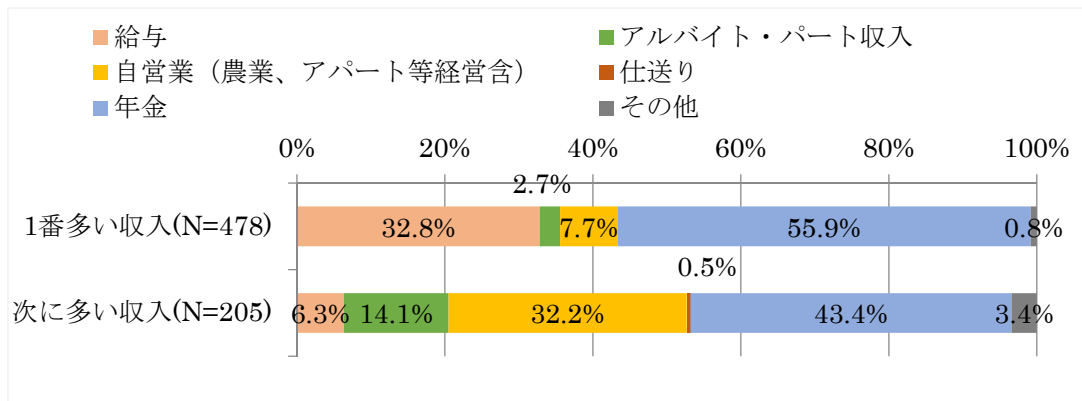
#### (3) 通学・通園の交通手段



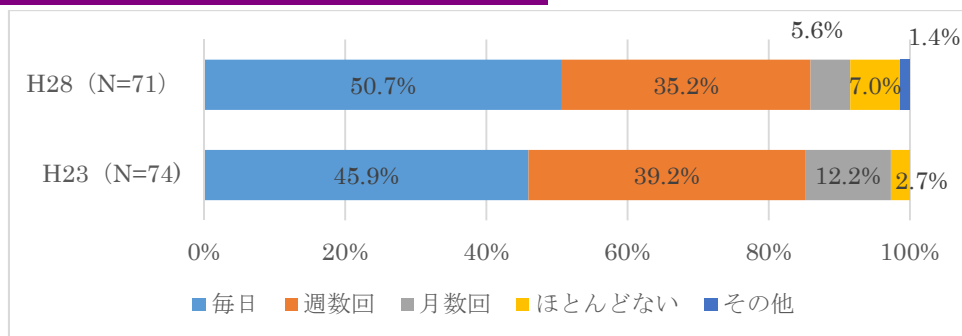
## ⑥ 暮らしの様子

- ・世帯の主な収入は、1番多い収入として「年金」の割合が最も高く、55.9%と半数以上に上っている。
- ・一人暮らしの方の会話の機会は、平成23年と比較して毎日会話する機会が増加している。
- ・独居世帯の方への声掛けとして「近所の人」が最も多く47.6%となっている。

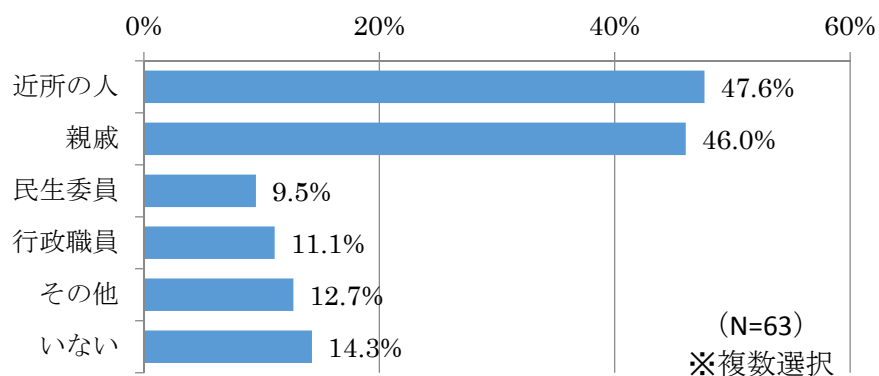
### (1) 世帯の主な収入はなんですか？



### (2) 【一人暮らしの方】誰かと話をする機会



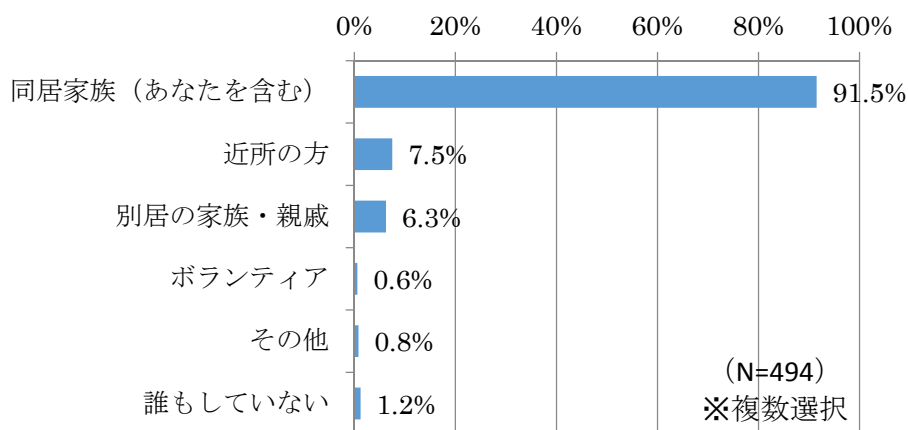
### (3) 【一人暮らしの方】定期的に自宅訪問や電話連絡など「声かけ」をしていてる方はいますか。



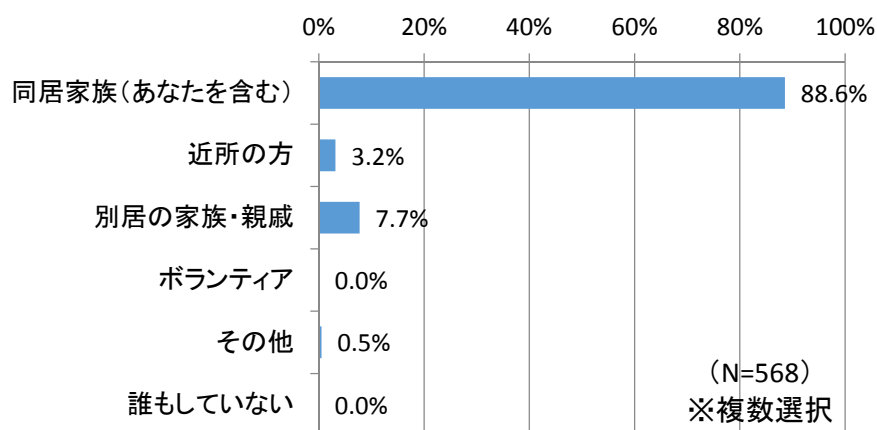
- ・積雪時の雪かき実施については、91.5%が「同居家族（あなたを含む）」と回答しており、高齢化の進行によってより深刻な問題になると考えられる。雪かき・雪下ろしのサービスは、住み続けるために必要なサービスとしても上位にあがっている。
- ・H23年度の調査結果と比較するとわずかではあるが近所の方に頼む人が増えている。
- ・大雪の際、山間集落の生活道路では除雪車の対応が遅れる可能性がある。そのような場所では地域内で協力し合い除雪する必要がある。

#### （４）積雪時、自宅の雪かきは主に誰がしていますか？

### H28



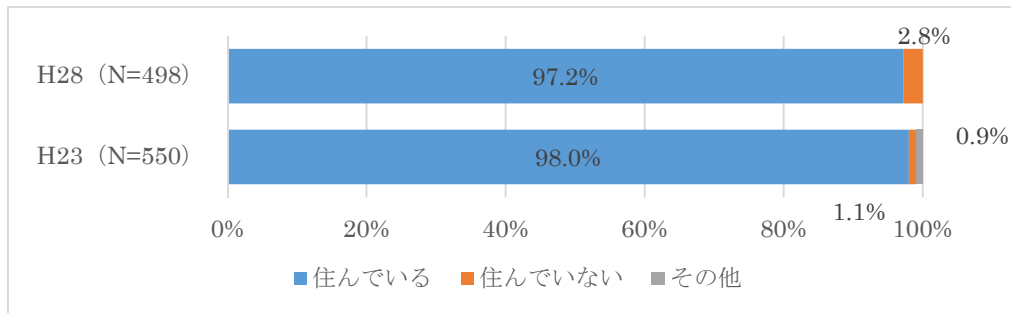
### H23



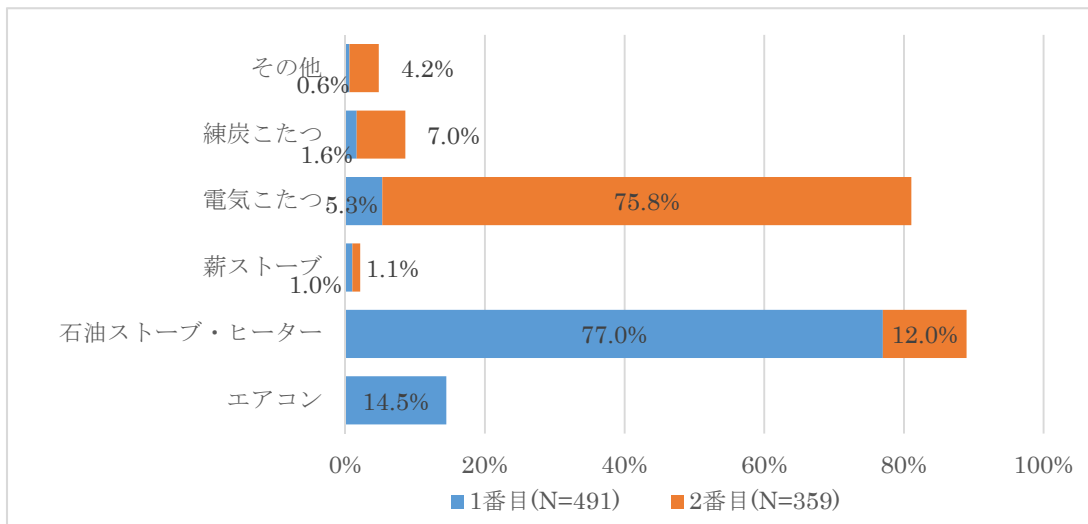
### ⑦ 住まいの環境

- ・住む家は、97.2%の世帯が現在の家に1年中住んでいると回答した。現在の家から離れる期間のある人でも、半数以上が同じ市町村内の別の場所に住むと回答した。
- ・冬季に使用する暖房器具として「石油ストーブ・ヒーター」をあげる世帯が多く、高齢化に伴い燃料の配達を必要とする世帯の増加が想定される。

#### (1) 現在住んでいる家は、1年中住んでいますか。



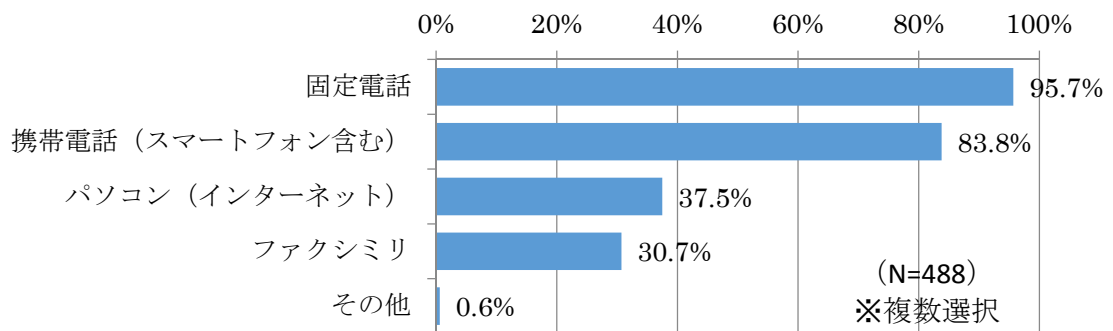
#### (2) 冬の間、居間で使っている暖房は、主に何を使っていますか？



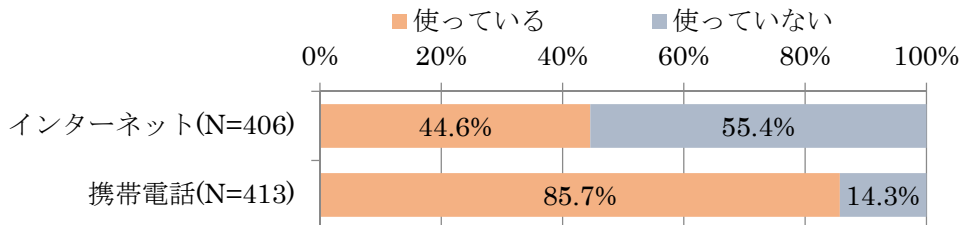
### ⑧ 情報通信機器の活用

- ・ 自宅にある通信機器では、「固定電話」「携帯電話（スマートフォン含む）」の割合が高い。インターネットは44.6%、携帯電話は85.7%の世帯が利用している。
- ・ 一方、暮らしの安心情報を得る媒体は、「テレビ」「新聞」「防災無線」の順に高く、インターネットや携帯電話の利用は少なくなっている。

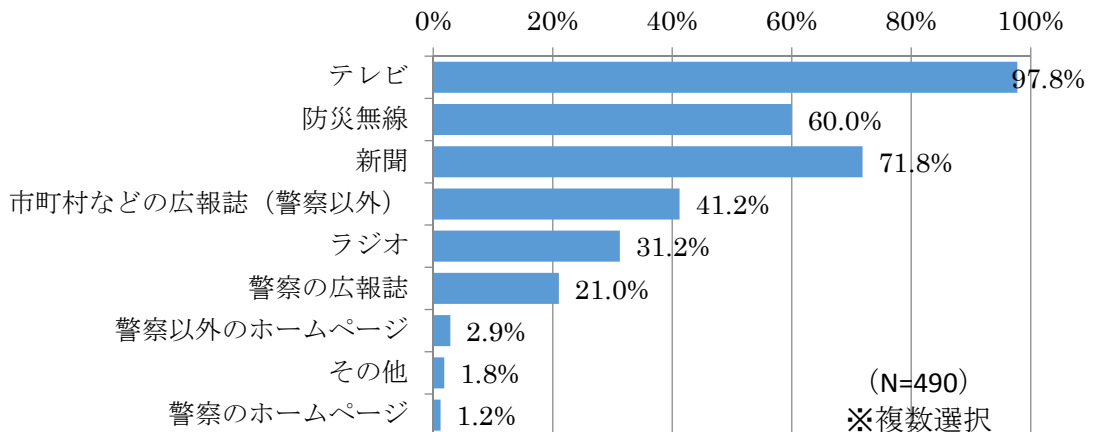
#### (1) 自宅にある通信機器



#### (2) インターネット・携帯電話（スマートフォン、タブレット含む）の世帯普及状況

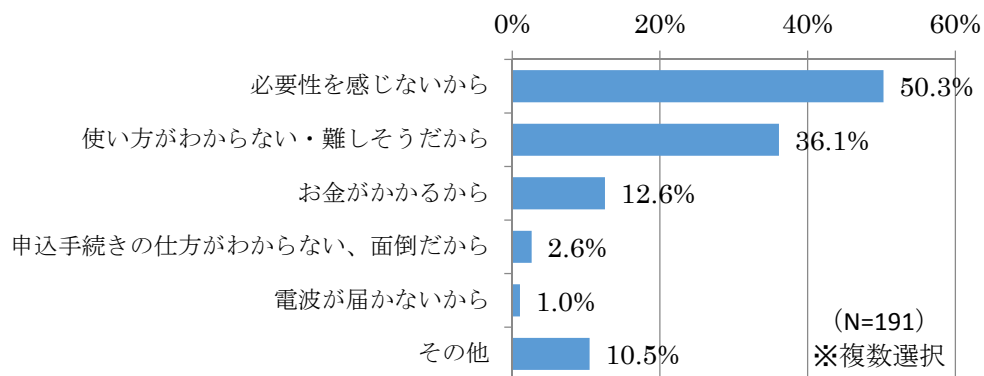


#### (3) 暮らしの安心情報を得る媒体

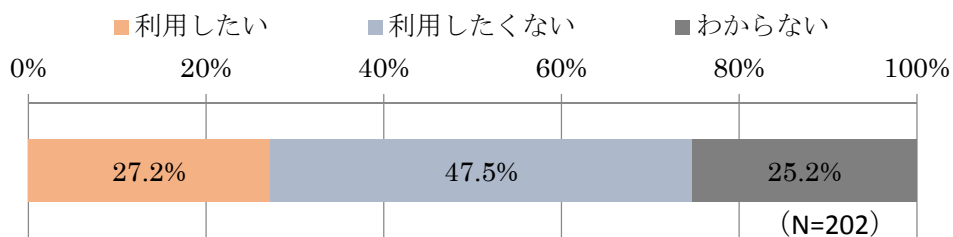


・インターネットや携帯電話を利用していない方の多くは、利用の必要性を感じていない。また、非利用世帯では、今後の利用意向として27.2%が「利用したい」と回答した。今後、インターネットを活用した見守りや情報伝達には課題がある状況となっている。

#### (4) インターネット・携帯電話を利用しない理由



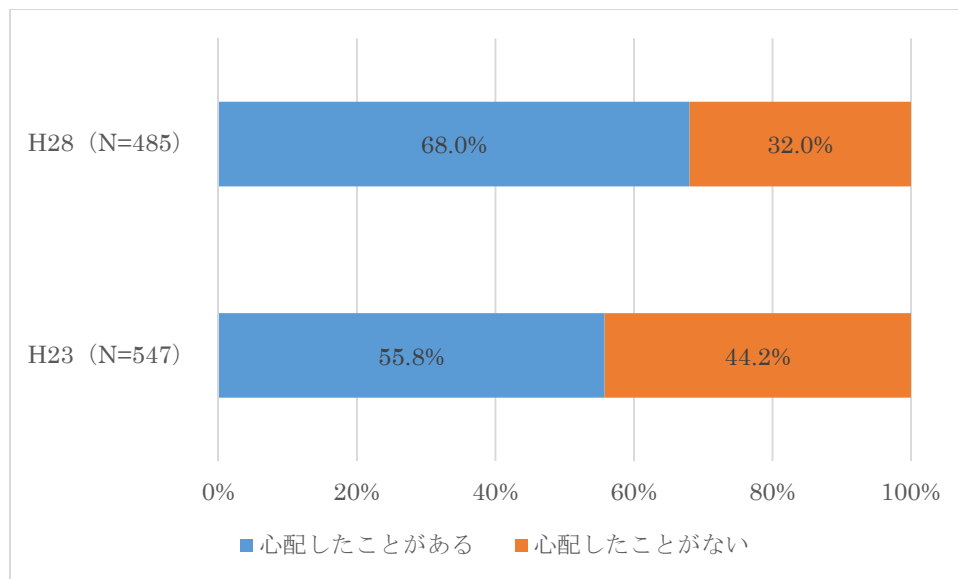
#### (5) インターネット・携帯電話の今後の利用意向



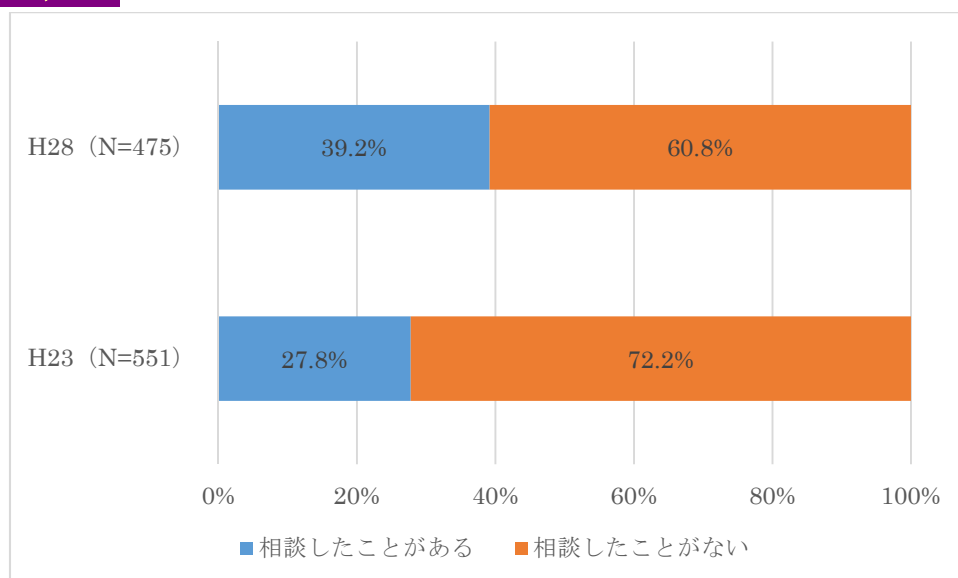
### ⑨ 災害対策

- ・災害時の孤立可能性については、「心配したことがある」の回答が68%と、平成23年の調査から12.2%増加している。
- ・災害時における家族との連絡方法についても、「相談したことがある」との回答が39.2%と平成23年から11.4%増加し、防災意識が向上していると考えられる一方、60.8%の世帯は依然として「相談したことがない」と回答した。

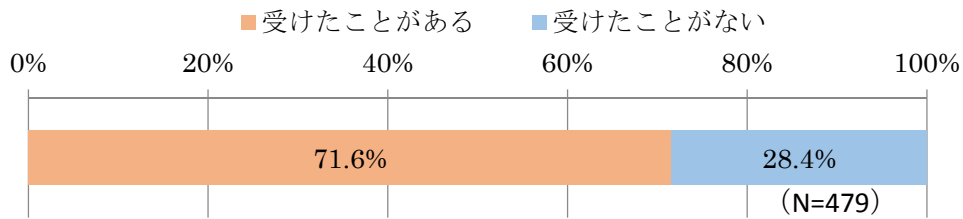
#### (1) 災害時（土砂崩れ、大雪など）に孤立する可能性を心配したことはありますか？



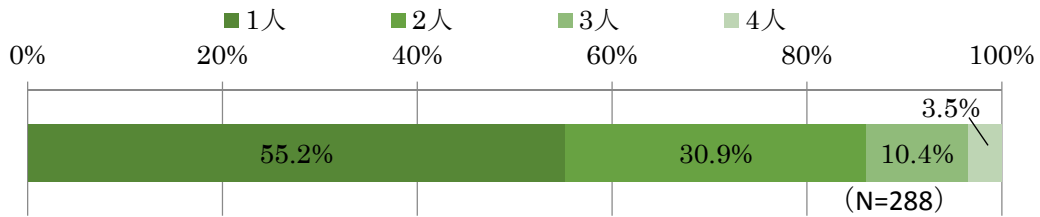
#### (2) 台風・地震など災害がおきた際に、家族との連絡方法を、家族で相談したことはありますか？



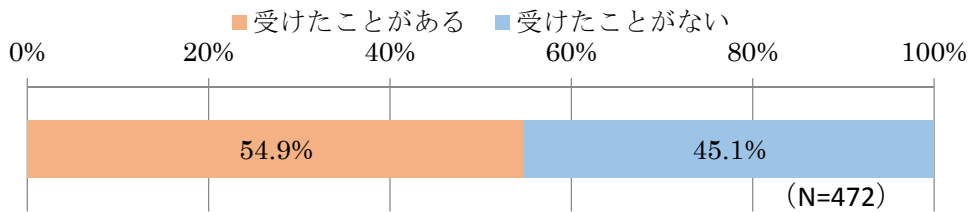
**(3) 家族の中に消火訓練（消火器の使い方・集落内の消火栓の使い方講習など）を受けた方はいますか？**



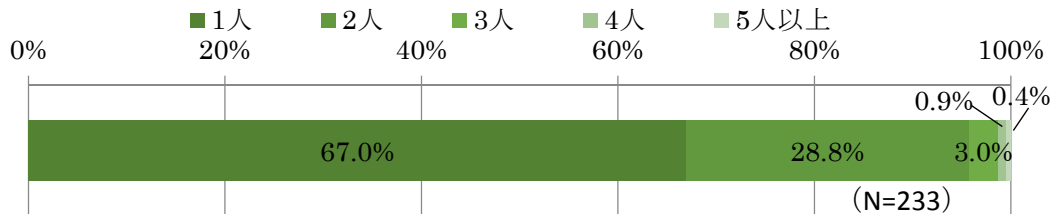
**受けた方の人数**



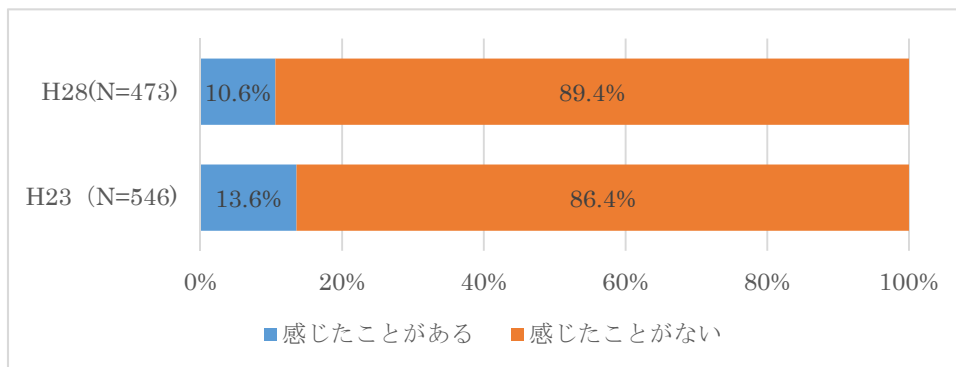
**(4) 家族の中に救命手当（人工呼吸・心臓マッサージなど）の講習を受けた方はいますか？**



**受けた方の人数**



**(5) 家族の中に今まで、犯罪に巻き込まれた又はその危険を感じた方がいますか？**



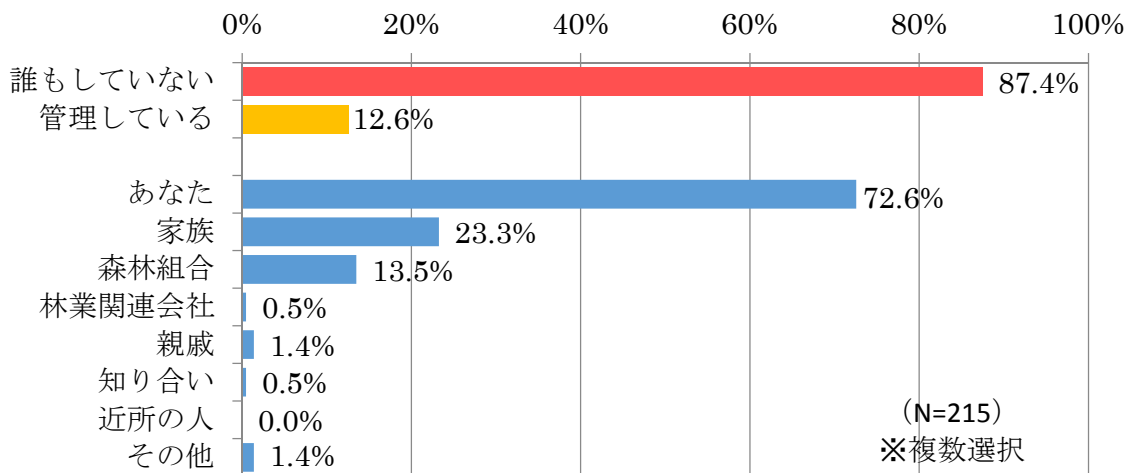


### 3 集落の環境と運営

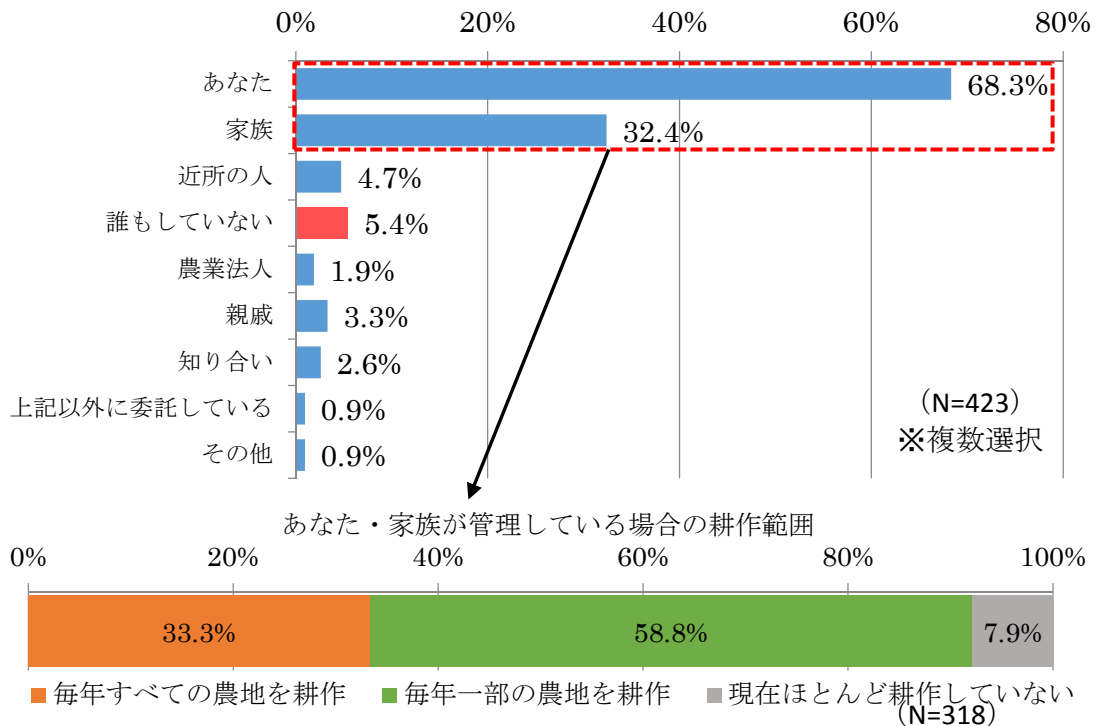
#### ① 山林・農地

- ・山林の管理では「誰もしていない」の割合が87.4%と高い割合を占めている。管理している場合でも、本人や家族の管理という回答が多い。今後、高齢化の進行に伴い管理作業が困難になると、更なる粗放化の進行が懸念される。
- ・農地の耕作または管理においても「誰もしていない」が5.4%となっている。また、家族内で管理している場合、すべての農地を耕作していると回答したのは3割程度である。

#### (1) 所有する山林の管理について



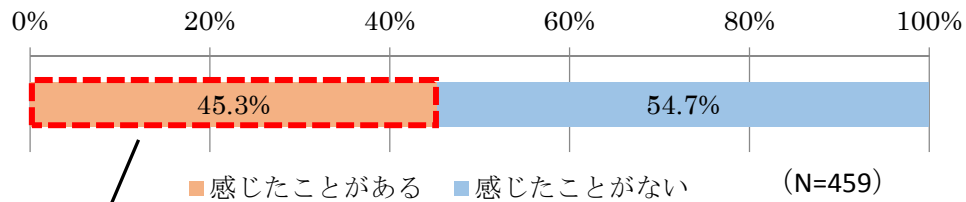
#### (2) 農地の耕作または管理を誰がしていますか？



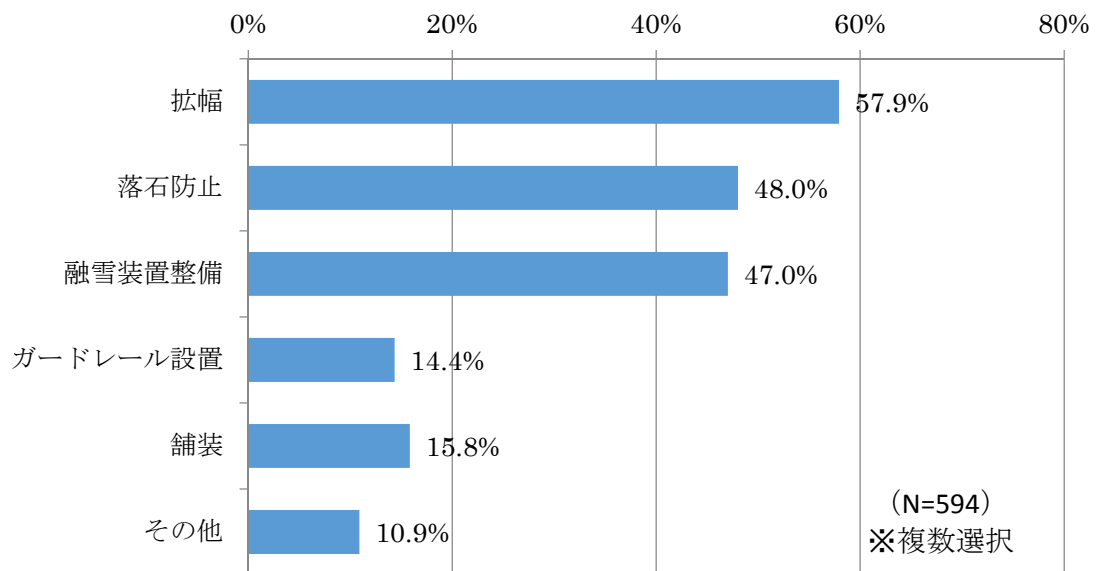
## ② 道路

- ・道路整備の意向では、45.3%が道路を整備してほしいと感じたことがあると回答した。
- ・具体的な整備内容では拡幅や落石防止、融雪装置整備の希望が多くなっている。

(1) 日頃通勤や買い物時に利用している道路が危険なので、整備してほしいと感じたことがありますか。



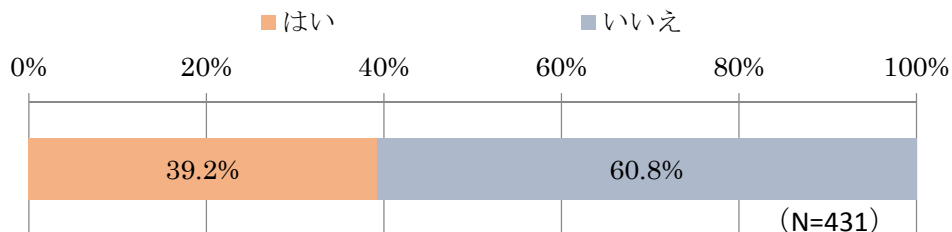
具体的な整備内容



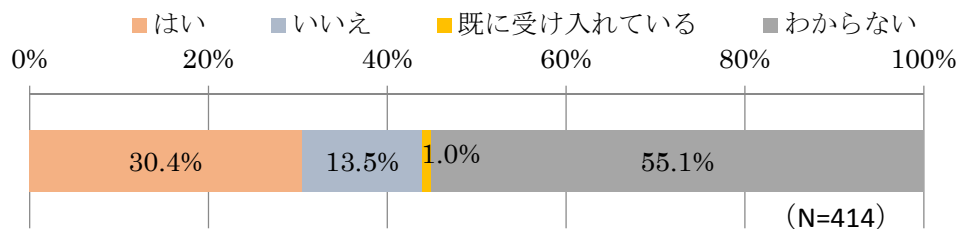
### ③ 地域おこし協力隊・集落支援員

- ・地域おこし協力隊や集落支援員については、39.2%が「知っている」と回答した。
- ・集落への受け入れについては、「受け入れたい（はい）」との意向がある世帯が30.4%となっており、導入拡大の検討が可能な状況となっている。

#### (1) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を知っていますか。



#### (2) あなたは「地域おこし協力隊・集落支援員」を、集落に受け入れたいですか。



#### ④ 集落を超えた取り組みと地域の課題

- ・集落を超えた取り組みについて、必要であるといった回答が多い。しかし、実際に他集落との連携を取っているところは少ない。今後は近隣集落だけでなく、若年層の多い地域を巻き込んだ集落維持活動が必要である。
- ・地域の課題としては、少子高齢化が最も多かった。その他に空き家や農地の荒廃、後継者不足などが挙げられた。

##### (1) 集落を超えた取り組みについて (主な回答)

- ・最も山あいに位置している集落のため、組織化しても恩恵が受けにくい背景がある。
- ・地域の協力連携は、今後ますます必要になっていくのだが、具体的な行動が出来ていない。
- ・他集落との地域連携は必要と考える。(住民の理解にバラつきあり)
- ・すでに地区公民館の代表として地域活動を行っている。
- ・文化的にもかつての交流や繋がりが大切であり、必要である。
- ・人材不足等の場合は集落を超えた取り組みも必要であるが、基本的には集落内の運営が望ましい。

##### (2) 今現在、地域の中で課題と思われるもの (主な回答)

- ・少子高齢化
- ・農林業において、後継者不足による荒廃地の増加
- ・空き家対策
- ・地域内交流の減少、自治会のまとまりがなくなりつつある。
- ・集落の維持に疲弊している。